

Assist [認知症] アシスト

認知症治療に携わる医療関係者に役立つ情報を提供

薬剤師の方へ

認知症の人
との
コミュニケーション
編

認知症の人とご家族に寄り添う

薬剤師のための

服薬コミュニケーション

[監修] 九州大学病院 精神科神経科

診療准教授 小原知之 先生

認知症の人と接する時の心がまえ¹⁾

- 「認知症の本人には自覚がない」は大きな間違い
- 「私は忘れていない！」に隠された悲しみ
- こころのバリアフリーを
- かかわる人の心がまえ

1) 認知症の人と接するときの心がまえ
(<https://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/dementia/a04.html>)

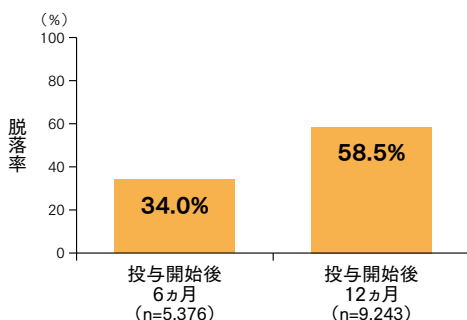
[監修] 九州大学病院 精神科神経科 診療准教授 **小原知之** 先生

認知症の治療薬は「効果を実感できない」などの理由により自己判断でやめてしまう人が多く、服薬アドヒアランスが低いことが課題となっています。そのため薬剤師は、認知症の人やご家族とコミュニケーションをとりながら、服薬指導や服薬支援などを行うことが求められています。認知症治療に対して不安な気持ちを抱えている人とご家族に寄り添うためにも、認知症の人とのコミュニケーション方法や適切な対応について知ることが大切です。

認知症の人の服薬状況

認知症の人は、服薬アドヒアランスが低いことが特徴です。特にアルツハイマー型認知症の人では、1年で約60%が治療を中断していると報告されています²⁾。中断の原因としては、認知症の人やご家族が服薬の意義を納得・実感しにくい、薬物治療の不安、飲めない環境におかれているなどが考えられています³⁾。また、服薬を拒否する人もおり、最も多い回答としては、病気とっていないことが挙げられます⁴⁾。

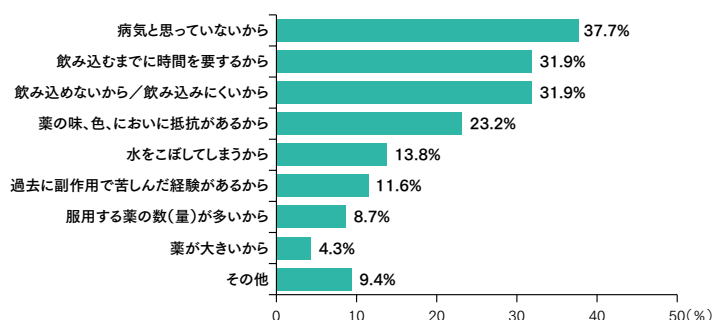
アルツハイマー型認知症治療薬の脱落率²⁾



(方法)

アルツハイマー型認知症の治療を行っている認知症の人のうち15,809例の治療薬の脱落率を、ロジスティック回帰分析により調査した。

認知症の人の服薬拒否の理由⁴⁾



(方法)

「わたしの病院」(<http://www.my-hospitals.net>)に登録している認知症の人のうち服薬拒否がみられた138名のご家族に、服薬管理に関する質問紙を用いて調査を行い、服薬拒否の理由を調査した。

認知症の人に対する薬剤師の3つの役割⁵⁾

薬剤師は、服薬指導を通じて高齢者と接する機会が多いため、認知症の疑いがある人を早期に発見し、速やかに医師と連携して対応することが求められています。また、認知症の人の状況に応じた服薬指導を行い、治療を中断させないことや、BPSD（認知症の行動・心理症状）が悪化した場合には、処方薬の効果と副作用の評価や観察を行い、必要に応じて医師に情報提供する役割を担う必要があります。

役割 1

認知症の徴候
(初期サイン)
を見逃さない

役割 2

治療の継続を
図る

役割 3

BPSD悪化の
主要因として
処方薬を疑う

早期発見のポイント⁵⁾

認知症の原因はさまざまです。認知症の原因のうち最も多いアルツハイマー型認知症では、早期からの薬物治療により、病気の進行を抑えることができるとされています。また、頻度は多くありませんが正常圧水頭症などの可逆性の場合は、発症後に放置することで治療による改善が望めないこともあります。

早期発見することで、認知症の人は病気について理解しやすくなり、生活の変化に向けて準備することができます。一方、ご家族は適切な介護方法や支援サービスに関する情報を早くから入手できるので、その後の介護の負担が軽減されます。薬剤師は、認知症の人とご家族の未来を考えて、日頃から認知症の徴候に目を配ることが大切です。

認知症の人の薬局での特徴⁵⁾

1. いつも服薬している治療薬を、初めて見たような顔をする
2. 会計時に、小銭があるにもかかわらず、いつも1万円札で支払う
3. 季節に合わない服装をしている

継続管理のポイント⁵⁾

認知症の人の治療を継続させるために重要なことは、服薬を中断させないことです。一包化により解決することはありますが、自己管理が難しい人はほとんどの場合、一包化だけで解決できません。治療を中断させないために、治療薬の継続管理は以下に留意することが大切です。

● 独りでの服薬を避けるため、「服薬をサポートできる人」の存在を事前に確認

周囲の負担を軽減するためにサポートできる人を複数設定し、「いつ、誰が」サポートするのかをきちんと決めておくことで、服薬状況が改善することがあります。

確認ポイント

「独居か、同居者がいるか」、独居の場合は「ヘルパーやご近所の方、同居していない家族などで定期的にかかわれる人がいるか」、同居者がいる場合は「同居者は服薬の手伝いができるか」などについて把握することが大切です。

● 飲み忘れを防ぐため、服薬回数を減らせるかどうかを医師と話し合う

服薬回数が多いほど、飲み忘れの頻度が高くなるため、服薬回数が多い場合には、減らせるかどうかを医師に相談してみましょう。

● 認知症の人やご家族に、お薬手帳の使用を徹底することを説明

在宅医療を受けられている人でも複数の医療機関を受診する場合があります。重複投与や併用禁止薬の服薬を防ぐためにも、お薬手帳は受診時には必ず持参し、医師と薬剤師に見せるよう繰り返し伝えましょう。

2) Haider B, et al., Alzheimer Dis Assoc Disord, 28(2), 128-133, 2014.
3) 山村恵子, ファルマシア, 872-875, 2019.

4) 今井幸充, 治療, 87(2), 433-442, 2005.

5) 薬剤師分科会 編, 薬剤師認知症対応力向上研修テキスト, 平成28年3月.

認知症の人が初めて来局した時の対応

認知症の人が初めて来局した時は、急がせたりせず、その人のペースを守りながら説明をしていくことが大切です。服薬指導では、挨拶や簡単な質問などで表情を見ながら、**認知症の自覚があるか**を確認し、状況に応じて服薬を開始することを理解しているか、生活環境について不安がないかなどを傾聴します⁵⁾。**一方的な治療薬の説明で終わらないように注意し、不安点を解消しつつ**服薬指導をすることを心がけることが大切です。

認知症の人との会話例⁶⁾

認知症の人
A

「認知症のお薬は、どのくらいで効果があらわれるのですか？」

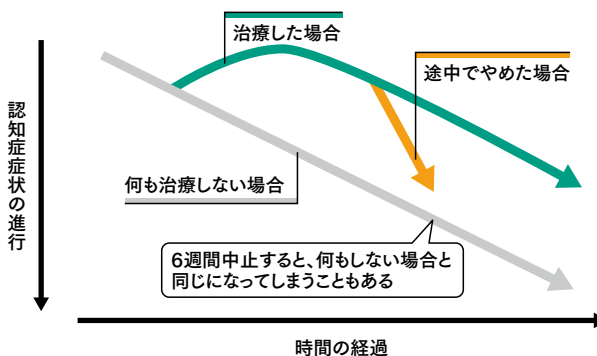
薬剤師

「数週間～3ヵ月くらいはかかります。
変化がないということは、お薬が効いていると考えてください。
お薬を続けることが大切です。」

解説

認知症の治療薬は、症状の進行を遅らせることが目的です。効果が感じられないからといって服薬をやめてしまわないように、服薬の意義を説明し、納得してもらうことが大切です。**6週間以上服薬を中止した場合は、再開しても効果が期待できないこと**を伝えるとよいでしょう。

自己判断で中止した場合の症状の進行



久米明人, 山村恵子, 認知症 気づける わかるケアできる Q&A50, p35, 2016, じほう.

認知症の人
B

「お薬を飲み忘れてしまいました。」

薬剤師

「飲み忘れを防ぐための工夫があります。
どの方法が良いか、一緒に考えてみましょう。」

解説

飲み忘れ・貼り忘れを防ぐために、①治療薬をご家族や介護者に、お薬箱やお薬カレンダーにセットしてもらう、②複数の治療薬のうち1剤でもOD錠に変更してみる、③ご家族から服薬状況を聞き取り、医師に服薬しやすい剤形(OD錠、ゼリー、貼付剤など)への変更を提案してみる、などの工夫ができます。

ご家族が初めて来局した時の対応

ご家族と一緒に来局した時は、まず認知症の人に、服薬を納得しているかを確認し、納得されている場合は通常の手順で説明を行います。納得されていない場合は、認知症の人とゆっくり話をして気持ちを聴き、納得してから説明を行います。ご家族に確認が必要な場合は、認知症の人の了承を得てから確認し、意思を尊重するようにしましょう⁵⁾。

ご家族との会話例⁶⁾

ご家族

「認知症が治らないなら、お薬を飲む必要はないのではありませんか？」

薬剤師

「認知症自体は治らなくても、**状況が改善したり、症状の進行を遅らせることが期待できます**。現状を維持できる期間が延びますので、その間に、認知症の人と一緒に取り組みたいことなどを行うのはいかがですか。」

解説

服薬により症状が軽減するので、介護者の負担が軽くなったり、ゆとりができ、認知症の人と穏やかに過ごせる時間が増えることを説明します。

「時計を半年戻すつもりでお薬を使ってみませんか」なども、納得されやすいコミュニケーションです。

初対面時のコミュニケーションのコツ⁶⁾

初対面の時は、批評や訂正、議論を避けることが大切です。また、認知症の人の話す言葉よりも、気持ちに集中するほうが、感情を読み取れることがあります。認知症の人に説明する時は、簡単な言葉で、簡潔に話すことを意識することが重要です。

認知症の人とのコミュニケーション⁶⁾

1. 忍耐強く聴く
2. 気楽に何度でも話してもらおう
3. 批評や訂正はしない
4. 間違っただ単語を使ったり、言葉が見つからない場合は、言い当ててみる
5. 指さしなどの言語以外のコミュニケーションを使う
6. 静かな場所など、雑音が入らない環境にする
7. 言葉よりも気持ちに集中する

5) 薬剤師分科会 編, 薬剤師認知症対応力向上研修テキスト, 平成28年3月.

6) 久米明人, 山村恵子, 認知症 気づける わかるケアできる Q&A50, P34, 36, 66, 103~104, 2016. じほう. を参考に作成

認知症の人が継続して来局している時の対応

継続して来局している認知症の人には、かかりつけ薬剤師が対応するように心がけ、認知症の人の様子から、副作用の疑いやBPSDの発現の確認が大切です。処方薬の種類や量が増えると、認知機能の低下を誘発し、副作用があらわれる可能性があります。また、服薬状況に問題があると気付いた時は、服薬を中断させないためにご家族などから情報を集めて、認知症の人の同意を得てから必要があれば医師にフィードバックします⁵⁾。

認知症の人との会話例⁶⁾

認知症の人

「お薬が追加されて不安です。」

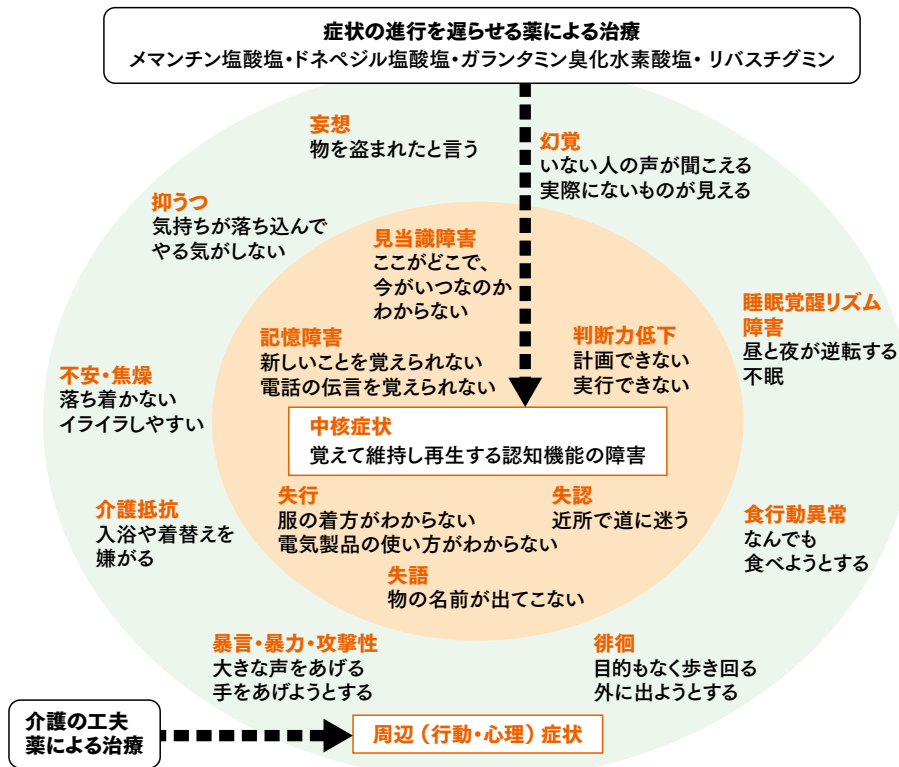
薬剤師

「お薬が追加になると不安ですよ。これまでと違う症状や、気になる症状はありましたか。今までと違った症状に合わせて、お薬が追加されています。」

解説

処方薬が追加された場合、その理由を理解しているかを確認することが重要です。また、不安、抑うつ、興奮、徘徊などの症状は介護上問題となり、対症的な薬物療法や環境の調整、応対上の工夫などで改善が期待できます。周辺症状を改善するために、処方薬が追加されることを説明するとわかりやすくなります。

中核症状と周辺症状について



名古屋大学病院薬剤師外来テキスト
久米明人, 山村恵子, 認知症 気づける わかるケアできる Q&A50, p43, 2016, じほう. より一部改変

ご家族が継続して来局している時の対応

認知症の人はご家族と一緒に来局されることが多いため、介護をしているご家族のお話を伺い、介護の状況や不安などを傾聴することも大切な役割です。すぐに解決方法を提示できなくても、**聴いてくれる人がいるだけで気持ちが楽になる**こともあります⁵⁾。また、ご家族と会話することが多くなる場合は、認知症の人の存在も忘れずに、認知症の人の顔も見ながら会話をすることが大切です。

ご家族との会話例⁶⁾

ご家族

「病院に連れて行くのが大変です。
お薬だけをもらうことはできませんか？」

薬剤師

「病院に行くのはひと苦勞ですよね。ですが、**医師はご家族の話や、認知症の人の様子・仕草など、さまざまなことから治療内容の判断をします。時間短縮の工夫があるので、試してみてくださいはいかがでしょうか。」**

解説

時間短縮のためにご家族ができる工夫としては、受診前にあらかじめ服薬開始後の生活の変化についてチェックシートなどに記入して医師に見せることがあります。また、受診日は喫茶店で甘いものを食べる日に決めるなど、楽しみを組み合わせると気持ちが楽になることがあります。

生活の変化についてのチェックシート



服薬開始後にあらわれる生活の変化として、下記のような項目があります。受診前に当てはまる項目にチェックすることで、受診の時間を短縮することができます。

生活の変化のチェック項目

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 笑顔が増えた | <input checked="" type="checkbox"/> 言葉ができるようになった |
| <input checked="" type="checkbox"/> 会話がかみあうことが増えた | <input checked="" type="checkbox"/> 夜眠れる日が増えた |
| <input checked="" type="checkbox"/> おだやかになった | <input checked="" type="checkbox"/> 周辺に関心を示すことが増えた |
| <input checked="" type="checkbox"/> ウロウロするなど
落ち着きのない行動が減った | <input checked="" type="checkbox"/> 呼びかけに反応することが増えた |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 簡単な家事をすることが増えた |



5) 薬剤師分科会 編, 薬剤師認知症対応力向上研修テキスト, 平成28年3月.

6) 久米明人, 山村恵子, 認知症 気づける わかるケアできる Q&A50, P42, 82, 2016. じほう. を参考に作成

認知症の人とご家族との コミュニケーションツールと認知症情報サイトのご紹介

コミュニケーションツール

認知症の人向け



ご家族向け



認知症情報サイト

認知症情報サイト

Assist

アシスト

認知症治療に携わる医療関係者や認知症の人やご家族向けに
役立つ情報を豊富にご用意しています。

アクセス方法

1



第一三共エスファコーポレート
サイトの「医療関係者向けサイト」を
クリックしてください。

2



「医療関係者向けサイト」TOPの
右上のボタンをクリックしてください。

3



AssistのTOPページからさまざまな
コンテンツをご覧いただけます。



エスファ 認知症

検索

<https://med2.daiichisankyo-ep.co.jp/dementia/>



お問い合わせ

製品情報に関するお問い合わせ

受付時間 9:00~17:30 (土・日・祝日・弊社休日を除く)

☎ 0120-100-601

フリーダイヤルがご使用いただけない場合 ☎ 03-3548-2218

緊急性を要する受付時間外(夜間・休日)の
製品に関する医療関係者からのお問い合わせ

受付時間: 平日午後5時30分~翌午前9時00分及び土、日、祝日、弊社休日

☎ 0120-856-838



第一三共エスファ株式会社

<https://www.daiichisankyo-ep.co.jp>